

① 投票率向上に向けた取組について

今年、4月に行われた長崎県議会議員選挙の低投票率。また、長与町議会議員選挙の無投票という結果は、住民の政治離れが明確になったのではと危惧している。しかし、これに関しては、様々な要因が考えられ一概に、行政の取組だけで打開策に繋がるとは考えていない。議会に身を置く立場としても反省し、今後一層の議会改革を進め、住民のためのより開かれた議会のため、まい進する責任があると感じている。

全国的にも若者の政治離れ、投票率の低下、高齢者や交通弱者への対応など、行政側と議会が両輪となり、結果を検証し投票率向上のための対応策を講じていかなければならないと思っている。また、将来の本町の行方を考え、現時点からの主権者教育の必要性も当然のこととして継続していくことが重要であるという考え方の元、以下の質問をする。

- (1) 全国的に様々な取組がなされているが、本町における対策はどのようなものか。
- (2) 高齢者や交通弱者への対策はどう考えているか。
- (3) 若い人たちへの投票率向上に関しての取組はどうか。
- (4) 主権者教育の必要性への見解を伺う。

② 環境への取組について

地球温暖化が進む中、自らできる3R活動、リデュース・ごみの発生抑制、リユース・再使用、リサイクル・再生利用を実践し、地球環境に負荷をかけない持続可能で豊かな循環型社会の形成が求められている。しかし、地球温暖化には歯止めがかからず、想定外の異常気象が頻発している状況である。地球温暖化は人災であり、私たち一人ひとりがほんの少し、意識を変えるだけで変化を生むことができるのではないかと思う。そのためにも、一番身近なごみ問題に関し、課題を共有し、日々実践していく取組が重要になってくるのではないかと考えている。「長与町一般廃棄物処理実施計画」の中で、今年度を実施する一般廃棄物処理の計画を体系的に示しているが、計画に沿った対策を講じ住民・事業者への啓発を行うとともに連携を図り、環境美化へ取り組んでいくことが必要ではないかと考える。そこで、以下の質問をする。

- (1) ごみ減量化は喫緊の課題として、様々な場面で協議されている。現状と課題を伺う。
- (2) 不適正なごみの排出、不法投棄防止に向けた方策、実績を伺う。
- (3) 食品ロスの削減、マイクロプラスチック問題への考え方を伺う。